

開催日：平成 30 年 10 月 2 日

議題 1：西部医療圏における医療提供体制について

(1) 静岡県における医療施設従事医師数の推移等

- ・医師の人数が 10 人以下の病院は、医療機能を維持するための人員確保に必死になって、なんとか現状を維持している状態である。
- ・静岡県では専攻研修の場は西部に多く、今年は浜松医科大学でも比較的研修医が多く集まりそうなので、より一層、若手の医師が地域に貢献できる状態になっていると思われる。

(2) 病棟ごとの稼働率等

※ この小議題に関する意見は特に出なかった。

(3) 療養病床の転換意向調査結果

- ・西部医療圏の慢性期を担う療養病床が、他の医療圏よりも早い時期から介護医療院に転換しているのは、この西部地域医療構想調整会議に出席している委員から情報提供や詳細説明があったからだと思われる。

議題 2：脳血管疾患及び心血管疾患の現状や課題等について

- ・高齢者の心不全が急速に増加しており、心不全パンデミックがくるのではないかと懸念している。高齢者の心不全は退院できるまでに回復させるのが難しいため、特に冬場はこの病院も満床になって救急車を受け入れられないという状況が発生しており、危機感を抱いている。この問題については病院だけでは絶対に完結できないので、まさしく地域完結型の医療の一番やらなければならない喫緊の課題である。なお、心筋梗塞については可能なことは全てやっているのに、これ以上できることはあまりないと思われる。
- ・西部医療圏及び中東遠医療圏では脳卒中連携パスがかなり以前から機能しており、患者のサポート体制も整っている。
- ・t-PA 療法（血栓溶解療法）は、脳卒中のうちの十数パーセントにしか効果がない。それに対して、血栓の回収術（血栓回収用デバイスを用いた血管内治療）がたいへん有効な治療手段として注目されているが、西部圏域には、それができる医師が少なく、エンボリズム（血栓が血管に詰まった状態）の処置の治療成績（急性期治療の成績）がかなり落ちてしまう。

議題 3：在宅医療後方支援体制整備事業について

- ・補助事業は短い期間で見直しがなされ、予算がないなどの理由で終わってしまう場合もあるが、こういう補助事業に手をあげる施設は、苦しい経営状況の中でがんばっているところが多いので、そのあたりを考慮して安易に事業を打ち切ったりしないほしい。

※ 報告事項 1 から 5 に関しては、特に質問・意見等はない。